



東陽病院放射線科医師 片山明彦 健康ウォッチング

横芝町のみなさんこんにちは。『レントゲン』(X線)についてすこしお話をしてみようと思います。

病院ではよく「レントゲンを撮りましょう」とか「レントゲンを撮ってください」とかいますが「レントゲン」とはいったいなんでしょうか。通常レントゲン=X線と思っただけでよいと思えます。X線は放射線のひとつで物体を透過したり、蛍光物質を発光させたり、写真フィルムを感光させる性質があります。これらの性質をじょうずに利用し、人体を傷つけることなく病気やケガの状態を調べることができます。

『レントゲン』の由来は、X線を発見したドイツの物理学者レントゲン博士の名前からきているのです。1895年にレントゲン博士が「X線」を発見してから一世紀が経過し、その間医療にとってなくてはならないものとしてX線機器はさまざまな改良発展を遂げてきました。

『レントゲン』(X線)について

X線CT(体を輪切りにした状態で撮影する装置)の発明により飛躍的に医療が進歩しました。現在の最新式のCTは脳出血や脳梗塞などの頭部の病気を1分もかけずに発見することができますようになりました。

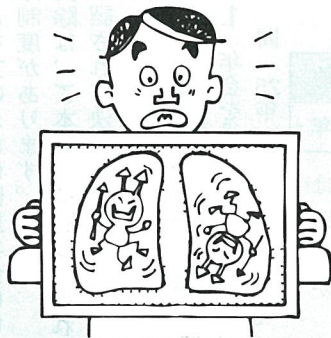
また、X線は医療だけでなくさまざまな分野で利用されています。その中でもX線の透過作用を利用した非破壊検査(物体を解体せず

に外部から透かして調べる検査)が有名で、テレビのコマーシャルなどでご存じのかたも多いと思います。

中近東の石油パイプラインの溶接部分を点検するにはX線が使われています。身近なところでは飛行場の手荷物の検査にも使われ、ハイジャックや危険物の密輸防止に役立っています。

また、学術調査などにも利用されX線により大昔のミイラを傷つけることなく調査することができます。生前の病気や当時の医療技術、死亡原因、おおよその年齢などを知ることができます。

このようにさまざまな分野で「レントゲン」(X線)は利用されているのです。最後に、「X線」も放射線のひとつですから人体に無害とはいえませんが、病院などの医療現場ではほとんど危険はありませんので安心してご利用になつてください。



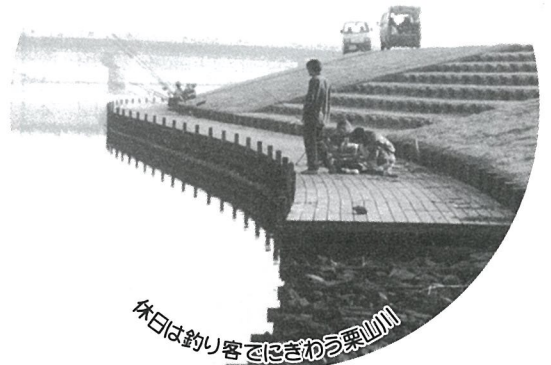
“栗山川をもっと親しみのある川にするために”

—第3回栗山川シンポジウム—

昔から私たちの生活と密接な関わりを持つ栗山川では、水害から生命・財産を守るため河川改修事業が進められています。また、一方では、地域の人々に潤いと安らぎを与える場として、自然景観に配慮した川づくりにも努めています。

そこで、“ふるさとの川栗山川”をもっと大切にして行くためには今私達は何をすべきかを考えるため、第3回栗山川シンポジウムを開催いたします。みなさんお誘い合わせの上ぜひご来場ください。

- 主 催 光町・横芝町
 - 期 日 平成11年3月14日(日)午後1時～
 - 場 所 光町町民会館大ホール(光町役場隣り)
 - 内 容 ・基調講演 演題「九十九里浜の河口と海の生物」
講師 東邦大学理学部野外生物研究室
秋山章男 助教授
- ・意見交換会



休日は釣り客でにぎわう栗山川